

環境活動をグローバルに強化する新環境行動計画 「第6期富士通グループ環境行動計画」

2010年度から2012年度にかけての 新たな環境活動の目標を設定

2010年4月、富士通グループは、Green Policy 2020の実現に向けて、2010年度から2012年度における「第6期富士通グループ環境行動計画」を策定しました。

第6期環境行動計画では、Green Policy 2020の3つの目標である「お客様・社会全体への貢献」「自らの変革」「生物多様性の保全」に基づき、6つの重点分野「先端グリーンICTの研究開発の強化」「製品・サービスの環境価値向上とグリーンICTの開発・提供強化」「自らの環境負荷低減の強化」「環境経営基盤の強化」「環境社会貢献活動の推進」「生物多様性保全活動の推進」を定め、さらに具体的な活動目標として18項目を設定しています。

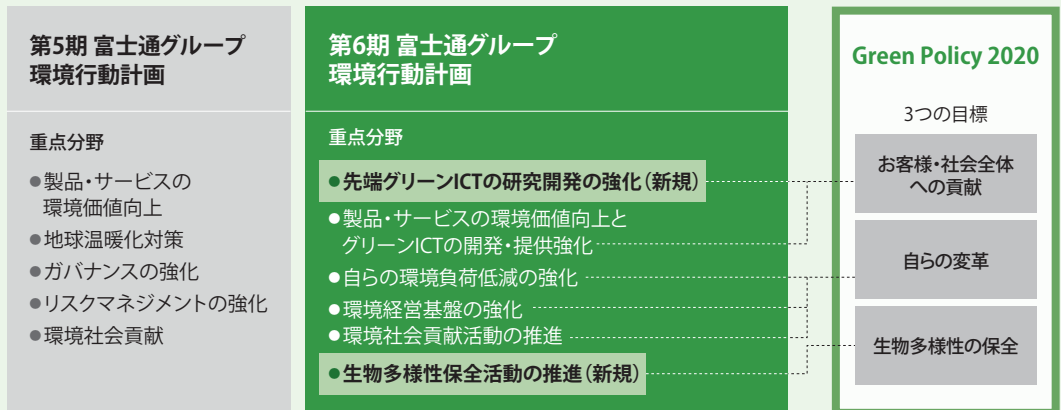
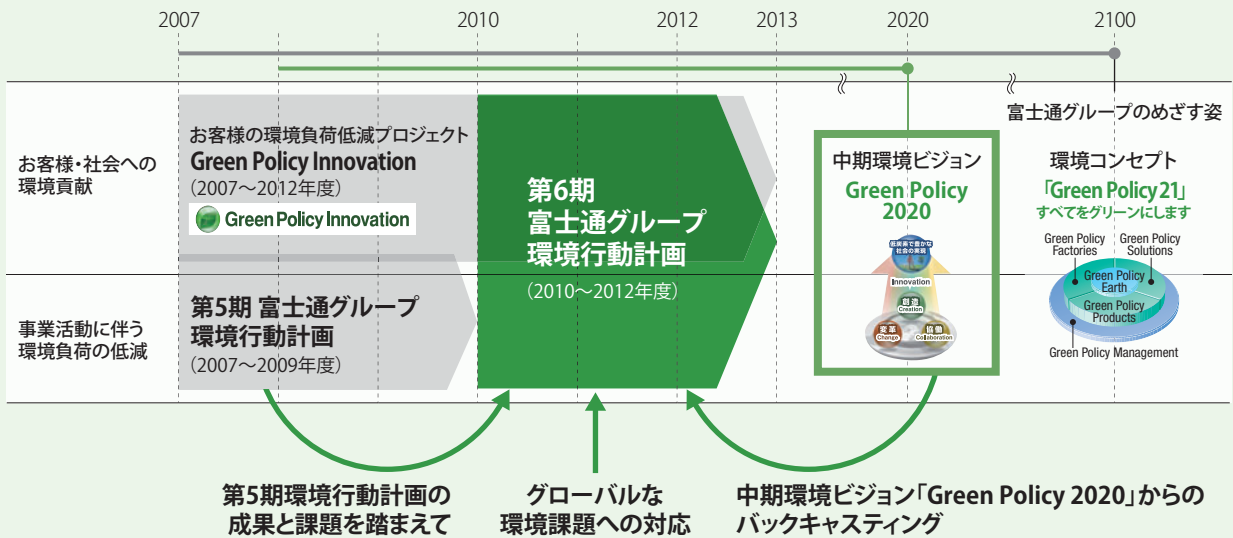
グローバルかつ長期的な視野で 環境課題の解決をめざす

中期環境ビジョンGreen Policy 2020からのバックキャストイングと、気候変動問題や生物多様性保全など近年のグローバルな環境課題を踏まえて、第6期環境行動計画では、「先端グリーンICTの研究開発の強化」と「生物多様性保全活動の推進」の2分野を新たに重点分野として設定しました。

また、新しい行動計画の目標としては、「先端グリーンICTの研究開発」「事業活動から排出される温室効果ガス総排出量を2020年における科学的知見なども踏まえて、2012年度末までにグローバルで1990年度比6%削減」「事業活動における生物多様性への影響や貢献を測る定量指標の構築と運用」などを掲げています。

- WEB**
- 第6期富士通グループ環境行動計画目標
<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/management/plan/stage6/>
 - プレスリリース:「第6期富士通グループ環境行動計画」を策定
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2010/04/15.html>

第6期環境行動計画のコンセプト



第6期富士通グループ環境行動計画

Green Policy 2020 3つの目標	行動計画 大項目	項目	2010年度 目標	2011年度 目標	2012年度 目標
お客様・社会全体への貢献	製品・サービスの環境価値向上とグリーンICTの開発・提供強化	先端グリーンICTの研究開発の強化 ●ICT機器の効率をトータルで2倍以上にする技術を次世代データセンターやネットワーク分野において2012年度末までに開発する。 ●ソリューションの環境負荷低減効果を向上する技術の開発割合を2012年度末までに35%以上にする。	●1.2倍 ●25%	●1.5倍 ●30%	●2倍 ●35%
		お客様・社会に貢献するグリーンICTの開発と提供 グリーンICTの提供により、2009年度から2012年度末までに累計で1,500万トン以上のお客様や社会のCO ₂ 排出量削減に貢献する。	526万トン	955万トン	1,500万トン以上
		環境配慮製品の開発と提供（スーパーグリーン製品） 全事業部門で新規開発したグリーン製品を対象に、省エネ、省資源など環境負荷低減に貢献するスーパーグリーン製品*を2012年度末までに30%以上開発する。	10%以上	20%以上	30%以上
		環境配慮製品の開発と提供（環境効率ファクター） 全事業部門で新規開発したグリーン製品を対象に、2008年度製品と比較して環境効率ファクター「2.5」を2012年度末までに達成する。	「1.5」の達成	「2」の達成	「2.5」の達成
		製品リサイクルの推進 富士通りサイクルセンターにおいて事業系ICT製品の資源再利用率90%をグローバルで維持する。	90%を維持	90%を維持	90%を維持
自らの変革	自らの環境負荷低減の強化	温室効果ガス（GHG）の排出量の削減 温室効果ガスの総排出量を2012年度末までにグローバルで1990年度比6%削減する。（CO ₂ :5%削減、CO ₂ 以外の温室効果ガス:20%削減）	2.5%削減	2.6%削減	6%削減
		温室効果ガス（GHG）の排出量の削減（再生可能エネルギー） 再生可能エネルギーの利用度を2012年度末までに2007年度比3倍にする。	2.7倍	2.7倍	3倍
		物流・輸送時のCO ₂ 削減 国内輸送CO ₂ 排出量を2012年度末までに2008年度比11%削減する。	9%削減	10%削減	11%削減
		お取引先のCO ₂ 削減の推進 CO ₂ 排出抑制/削減の取り組みを実施するお取引先からの調達を推進する。	60%（部材系取引先における調達比率[社数比率]）	80%	100%
		ファクトリーでの改善（化学物質） 重点化学物質の排出量を2012年度末までに2007年度比10%削減する。	4%削減	7%削減	10%削減
		ファクトリーでの改善（廃棄物） ●廃棄物発生量を2012年度末までに2007年度比20%削減する。 ●国内生産事業所におけるゼロエミッション活動を継続維持する。	11%削減	13%削減	20%削減
		オフィスでの改善 グリーンオフィス制度の「四つ星（★★★★）レベル」以上を2012年度末までにすべての事業所で達成する。	国内：新基準でのトライアル 海外：実態調査	国内：70% 海外：評価基準ドラフト	国内：100% 海外：導入トライアル
環境経営基盤の強化	グローバル統合環境マネジメントシステムの継続的改善 ●環境経営へのさらなるICTの導入を推進し、スマートな環境マネジメントシステムを構築する。 ●環境パフォーマンスの向上のため、目標の達成度合、法規制の順守状況などを総合的に判断する仕組みを2012年度末までに主要な国内製造系グループ会社に100%適用する。	●リモートコミュニケーションの導入によるカスタマイズおよびトライアル ●パフォーマンス評価方法の確立	●ブロック適用率50% ●トライアル実施	●ブロック適用率75% ●国内製造系グループ会社まで拡大	
	ステークホルダーとのコミュニケーションを通じた環境経営の推進 環境経営の質向上を目指し各組織で環境コミュニケーションを推進する。	環境情報の発信強化	環境情報の発信強化	環境情報の発信強化	
環境社会貢献活動の推進	環境社会貢献活動を通じた社員の環境マインドの更なる向上 ●社会貢献活動の情報共有システム「Act-Local-System」を2010年度末までに構築し、世界の各拠点で実施している環境社会貢献活動の情報をグローバルに共有する。 ●世界の各拠点での環境社会貢献活動を継続するとともに、「Act-Local-System」を活用し、より地域社会に貢献できる活動に取り組む。	●全拠点での実施 ●国内ネットワーク構築および運用 ●海外ネットワーク構築および運用	●全拠点での実施 ●国内ネットワーク運用 ●海外ネットワーク運用	●全拠点での実施 ●国内ネットワーク運用 ●海外ネットワーク運用	
	自らの事業活動における生物多様性への影響低減 ●事業活動における生物多様性への影響や貢献を測る定量指標、および影響を低減しICTによる貢献を拡大する仕組みを構築する。 ●生物多様性保全の取り組みを実施するお取引先からの調達を推進する。	●生物多様性への影響を評価する「富士通グループBD統合指標」の構築 ●60%（部材系取引先における調達比率[社数比率]）	●BD統合指標により評価した影響度（主要事業領域）を2009年度比1.5%削減 ●80%	●BD統合指標により評価した影響度（主要事業領域）を2009年度比3%削減 ●100%	
生物多様性の保全	生物多様性保全活動の推進	●ICTを活用した生物多様性保全に貢献するモデルケースを2012年度末までに主要な事業所で構築する。 ●生物多様性保全・啓発活動を2012年度末までに全拠点で実施する。	●生物多様性貢献モデル構築のための調査実施 ●国内：1回/年 ●海外：1回/3年	●調査結果に基づく試行 ●国内：1回/年 ●海外：1回/3年	●主要事業所への展開 ●国内：1回/年 ●海外：1回/3年

※ 第5期環境行動計画より厳しい基準に見直し「省エネ」と「その他分野（省資源など）」の両方においてトップグループレベルである製品。

お客様とともに

社員とともに

お取引先とともに

株主・投資家のために

国際社会・地域社会とともに

地球環境のために